

「北極圏旅行記 2017 夏 (22)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/30 メルブへの雨の旅路 (2)～



この日は、途中からルートを選択が2通りあった。一つはフィヨルドと山地を迂回する、大変な遠回りのルート(上図の水色のルート)。道のりは148kmもあり、2時間近くかかる。もうひとつはフィヨルドの湾口を短絡するフェリーに乗るルート(上図の赤いルート)。こちらはわずか10kmで、フェリーに乗っている時間も30分ほどである。実は上図の黄色の←→の区間は、2009年まで開通していなかった。



2003年に買った地図を見ると、当該区間の道は点線表示で、「未完成」となっている。レイネ村やÅ村に向かうには、フィヨルド沿いに迂回して、このフェリーに乗るしか方法がなかった。かつては、このル

トがE10号線に指定され、幹線道路だった。現在は点線区間が開通してE10号線になったが、フェリーは現在でも残っている。

18-732 Melbu-Fiskebøl	
6/6-30/9 17	
Søndag	
Fra	Fra
Melbu ferjekai	Fiskebøl ferjekai
0750	0830
0950	1030
1110	1150
1230	1315
1400	1440
1520	1600
1640	1730
1830	1915
2015	2055
2130	2210

これは現在のフェリー時刻表(日曜日用)である。1～2時間に1便の運行で、夜間は運行していない。しかしかつて「国道フェリー」だった時代は、昼夜を問わず、30分～1時間に1便の運行だったという。今日の目的地 Melbu (メルブ) も、フェリー発着の湊町として栄えていたようだ。

ちょうど Fiskebøl (フィスケベール) 発 13:15 の便に乗れそうだった。このフェリーは大型車を除き予約不要なので、「よしフェリールートにしよう!」と決めた。しかし乗り場が国道から少しそれていて、気づかぬうちに通り過ぎてしまった。



まあ、フィヨルド沿いの道も良いだろう。フェリーの航送運賃 400 クローネ（約 5000 円）も浮いた。実際に走ってみると、天気は悪いものの、実に美しい風景に出会うことができた。



地図から想像したロフォーテン諸島の風景は、岩峰の続く荒々しいものだと思っていた。しかし実際の風景は、少しちがっていた。フィヨルドの湾口や中ほどでは、確かに荒々しい岩峰と切り立った崖が多かった。しかし一番奥までゆくと風景は一変し、まるで山の中の湖畔のようになる。湖畔とちがうのは、海藻が見られることだ。

ロフォーテンで珍しい風景は「砂浜」である。これまでずっと海岸線を走ってきたが、一度も見えていない。しかし国道の右手に「海水浴場」の標識があったので、ちょっと寄ってみることにした。



確かに砂浜があった。フィヨルドは狭い湾で、外洋に面していないので、ほとんど波がない。波がなければ海岸の岩や小石はなかなか砕けず、砂はできない。しかしこの海岸は、比較的外洋に近く、波も日本の海岸とあまり変わらなかった。



「海水浴場」といっても、海の家も着替え用の小屋もなく、しかも気温は 15℃。砂浜で遊ぶ親子以外は誰もおらず、もちろん泳いでいる人も見なかった。



ロフォーテン諸島は、大小の島の連なりである。島と島は、長大な橋か海底トンネルで結ばれている。鉄道はないので、自動車道のみである。



このような長大な橋を何度も渡った。下は海である。この日は天気が悪かったが、もし晴れていたら、橋の上からもすばらしい景観が見られただろう。